

胃がん検診のおすすめ

胃がんは、早い段階では自覚症状がなく、かなり進行しても症状がでない場合があります。胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合には検診を待たずに医療機関を受診する必要があります。

1 胃がんの状況

日本全国で1年間におよそ135,000人が胃がんと診断されています。胃がんと診断される人は男性に多い傾向があり、50歳ごろから増加して、80代でピークを迎えます。男性では最も多く、女性では乳がん、大腸がんに次いで3番目に多いがんです。

2 胃がん検診の方法

胃がん検診は50歳以上、2年に1回定期的に受診することが推奨されています。

胃がん検診として「効果がある」のは「問診」に加え、「胃部X線検査」、「胃内視鏡検査」です。

・胃部X線検査

発泡剤、バリウムを飲み、胃の中の粘膜を観察する方法です。検査当日は朝食が食べられません。バリウムを飲むことにより、便秘やバリウムが腸内に詰まって腸閉塞を起こすことが稀にあります。消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、運動障害、腎疾患、糖尿病などがある方は受診できない場合があります。検査を受ける前にご相談ください。

・胃内視鏡検査

口・鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。検査当日は朝食が食べられません。常用薬、アレルギーのある方は事前にご相談ください。

3 胃がん検診の精密検査

検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は、必ず精密検査を受けてください。

胃がん検診における一般的な精密検査は胃内視鏡検査です。検査で疑わしい部位が見つければ、生検(組織を採取する)を行い、組織診(悪性かどうか調べる検査)を行います。